牛の尿を特殊発酵　善玉活性水の土壌改良材

未利用資源を有効利用

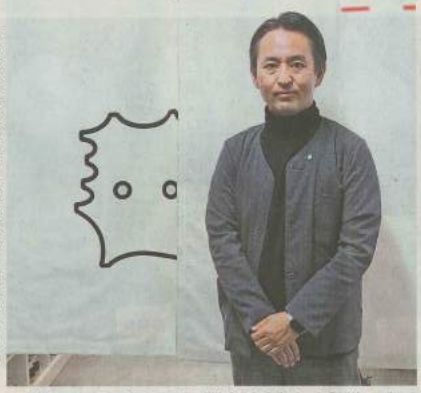
北見市・環境大善㈱

一定の品質保ち無臭　連作障害の対策にも

【北見市】環境大善株式会社（代表取締役社長・窪之内誠さん）は、北見市端野町で牛の尿を特殊発酵させ、天然成分100％の「善玉活性水」を製造している。同社は、消臭液と高性能植物成長促進効果を含む液体の研究、製造、販売に取り組み、地域農業の発展に一役買っている。

同社は、善玉活性水を独自の工程で土壌改良材として製品化し、「液体たい肥土いきかえる」の名称で販売している。固形堆肥は、品質が一定にならず作るのに時間を要するが、液体堆肥は牛の尿を独自の技術で特殊発酵し生成するため、常に一定の品質を保ち無臭だ。

「液体たい肥土いきかえる」



牛の尿を特殊発酵させ液体堆肥を販売している代表取締役社長の窪之内さん

ドローンで散布

同商品は液体堆肥として近年、農家でも使用されている。固形堆肥と違い、栽培途中の作物にドローン（小型無人機）で散布することができる。ドローン会社とJAとの昨年度の合同テストでは、通常の4分の1の時間で散布ができたという実験結果がある。

リン循環活性や炭素循環活性の向上で、連作障害の対策にもなるという。実際に連作障害が発生した畑では、土壌が改善され、商品未使用の作物よりも成長効果が見られた。また、他の肥料と併用したところ、肥料の相乗効果も確認された。

トマトでの散布実験。右が「液体たい肥土いきかえる」の散布、左が通常栽培

カンボジアに年間100トン輸出

同社は、海外の流通にも力を入れている。東南アジアでは農業は盛んだが、化成肥料の散布で土が痩せるなどの問題がある。土壌改善のために同社の商品を使うと、肥沃な土地に戻るスピードが上がるという。実際にカンボジアには年間100トンもの輸出を行っている。

海外での使い道は農業だけではなく、エビの養殖に善玉活性水を使用することで、水中微生物が活性化され、エビの排泄物や脱皮の殻の分解を促すことができる。また、稚エビが死ぬことが少なくなり、生産性の向上も見込まれる。

窪之内さんは「弊社の商品は、未利用資源を原料として利用価値を拡大し、日本や海外の農業を救う資材です。しかし、流通を常に考えて物を作らないと、良い物を作っていても売れない。どのような流通をして、そのために弊社が何をできるかを伝えることが大切です」と話す。（坂本）

全道5組合
ネットワーク
北海道

NOSAI

≡お問い合わせ先≡
北海道NOSAI
〒060-0004
札幌市中央区北4条
西17丁目1番地　北農ビル内
☎011-271-7263
http://www.hknosai.or.jp/
e-mail=hk_kouhou@hknosai.or.jp

ふれあい広場

漆原（うるし）　涼（りょう）さん

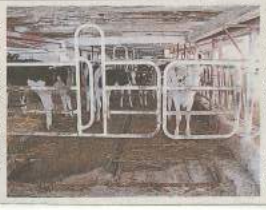
【真狩村】漆原涼さん(26)は、父親の了さん(62)と共に、バレイショを中心にユリ根、小豆、ニンジン、多岐にわた

左から涼さん、長女の翠（すい）ちゃん、妻の小春（こはる）さん

牛舎の機械化進め　作業効率化を実現

枝幸町・赤坂　一弘さん

【枝幸町】枝幸町の赤坂一弘さん(50)は、5年前に



除ふん作業を効率化するためフリーストールに変更し、スクレイパーを設置した